

● NGO ミーティング

今日から、毎朝9時から9時45分は、NGO ミーティングを定例で行うことにしていたが、今回 NGO ルームが与えられなかったために場所をどこか探さなくてはならなかった。コンラッド・ホテルから道を挟んで海岸沿いに建っている海の家を MedWet が部屋を借りて展示やセミナーを開催しているので、その横のミーティング場所を借りて行うことにした。

初日は、人数が少なく日本と韓国メンバーくらいしか集まらなかった。あまり、会議らしいことはできず、相互の情報交換で終わってしまった。

● NGO からのステートメント

前日のプレ NGO 会議で、NGO の皆で練って作成したステートメントが、開会式で地元の NGO アグアラ・ポペのバージニア・ジェレさんから発表された。

もっと NGO との関わりをしっかりと認識してほしいといった要望を述べた。



NGO ステートメントの発表

● プレナリーセッション

始めに会議の進め方について、アジェンダの確認やルールの確認などが行われた。今回は、オブザーバー参加者の全員の名前と国名を条約事務局長が読み上げた。膨大な数の異国人の名前を聞きながら、ウルグアイと日本からの参加者が多いと感じた。



プレナリー会場の出口で、アワード呼び込みペンギンさんと

● サイドイベント

サイドイベントは、本会場から廊下を進んで、少し

離れたところにまとまっている6部屋の会議室で行われている。効率的に情報を収集するために、呉地さん、柏木さん、後藤の3名であらかじめ、参加するサイドイベントを決めておいて、分散して聞くことにした。分担としては、田んぼ系は呉地さん、渡り鳥系は柏木さん、二人が行けないけど聞いてきて欲しいサイドイベントに後藤が入り、特に無い場合には、好きなサイドイベントに参加することにした。

この日は、日本政府（環境省）が、2015年に新たにラムサール条約湿地に指定された4箇所の首長をはじめ関係者を集めて祝賀サイドイベントが行われた。



日本の新規登録4自治体への登録証授与

● ラムサール・アワード表彰式

ラムサール条約湿地の賢明な利用と保全に大きく貢献した個人、組織、政府に与えられるもので、1999年より会議の都度実施している。今回スポンサーは、ダノン・エビアンで、ダノングループの水基金から受賞者には米ドル1万ドルが与えられる。今年は、賢明な利用部門（1名）、イノベーション部門（1名）、そして若者部門（1名）の他に、湿地コミュニティにおける目覚ましい貢献を果たした者（3名）にも賞を設定した。

会場はOVO（オーブイオー）カジノの奥にある派手な電飾とミラーボールがまばゆいバーで行われた。

表彰式の前に有名な風景写真家のチャーリー・ウエイト氏が、非常に面白おかしく、自分の写真を撮るときのスタイルを語り、写真を何点か紹介した。



アワード会場



写真家チャーリー・ウエイトさん

2015年のアワードは、順番に大型のモニターで大音響の効果音とともに、受賞者それぞれの地元での功績を短いビデオクリップにまとめて紹介した後、表彰台に本人を招いて表彰状を渡すという形式で行われた。



左：Oceanium（団体：セネガル）



右：Fundación Humedales Bogotá（団体：コロンビア）



左：William Mitsch（米国）



右：Tour du Valat（団体：フランス）



Gea Jae Joo（韓国）

表彰式が終わった後、80年代ディスコのような会場で、レセプションが行われた。

オンとオフを弁えたブリッグス事務局長は、あえて急にはしゃいで、お茶目な部分を披露して、参加者を盛り上げるなど、エンタテインもしてくれた。

●ジャパン・ナイト

海外での会議が行われる時の方が、湿地保全に関わる日本人が一同に会する機会があるということで、毎回、ラムサール条約会議の開催時に日本人が集まって会食をすることが恒例となっているという。WIJが音頭をとりジャパン・ナイトがサンセット・ビーチホテルの食堂で行われた。

【ラムサール・アワード受賞者】

賢明な利用部門

Ms Giselle Hazzan（イスラエル）

イノベーション部門

Oceanium（団体：セネガル）

若者部門

Fundación Humedales Bogotá（コロンビア）

湿地コミュニティにおける目覚ましい貢献を果たした者

William Mitsch（アメリカ）

Gea Jae Joo（韓国）

Tour du Valat（団体：フランス）